

1. 評価結果概要表

作成日平成21年10月16日

【評価実施概要】

事業所番号	3771500752
法人名	医療法人社団 有隣会
事業所名	グループホームさくら
所在地	香川県綾歌郡綾川町滝宮557-5 (電話)087-876-5661

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価決定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年3月30日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 12.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨2階建て造り
	2階建ての1階~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.2歳	最低	78歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団有隣会 溝渕クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が持つ機能を十分活かしながら、利用者一人ひとりの尊厳を大切に安全に暮らせる支援をしている、地域に根差したグループホームである。管理者・職員は日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように日常ケアや言葉かけに配慮し、情報を共有して一緒に過ごし見守りながら理念の実践をしている。また、医療連携の充実で体調管理や緊急時の体制が整い利用者や家族の信頼が得られている。管理者・職員はサービスや職員の質向上への意欲がうかがえ、今後の更なる取り組みに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題については、共有の視点を持ち順次前向きな姿勢で改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を理解し、管理者が職員と意見交換をして自己評価を作成したが、職員は現在の状況を把握して課題を共有している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4・5・6)</p> <p>運営推進会議では、グループホームの現状報告をしたり情報交換や参加者が意見や思いを伝える機会を設けている。運営推進会議で課題ができ、改善やサービス向上に活かせる会議の持ち方になるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情相談窓口を設置し、家族の面会時には、意見や不満・苦情が聴けるような環境や雰囲気作りに配慮している。管理者、職員は意向にそえるように情報を共有して運営に反映している。また、毎月文書で利用者の暮らしぶりや近況を報告して安心が得られるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや老人会、自治会、文化祭、小学校の運動会等の行事に参加している。認知症の理解を広めるために介護教室を開いたり、郵便局での利用者の作品展示会は毎年恒例になっている。利用者の行事参加には体力や一人ひとりのペース等を考慮し意向に沿いながら地域との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人と事業所の理念は、地域の中で利用者の暮らしを支えていくサービスのあり方を示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、利用者のその人らしく尊厳ある暮らしを支援するため、日々のケア場面で共有し具体的な理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや老人会、自治会、文化祭、小学校の運動会などの行事に参加をしている。また、認知症の理解を広めるために介護教室を開いたり、郵便局での利用者の作品展覧会は毎年恒例になっている。利用者の行事参加には体力やペースなどを考慮し意向に沿いながら地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価実施の意義を理解し、管理者は職員と意見交換をして自己評価を作成した。また、前回の課題や現状の課題を認識しながら、前向きな姿勢で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの現状報告をしたり情報交換や参加者が意見や思いを伝える機会を設けている。運営推進会議で課題ができ、改善やサービス向上に活かせる会議の持ち方になるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、町の担当職員と運営推進会議以外にも、相談や意見交換をして、連携が取れる関係作りに努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には、毎月、利用者の暮らしぶりや金銭出納等を担当者が文書で報告している。家族の面会時には近況を知らせたり、緊急時には電話報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口の設置や、家族等の面会時に意見や不満・苦情が聴けるような環境や雰囲気作りに配慮している。また、管理者・職員は意向に沿えるように情報を共有して運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は利用者との馴染みの関係を大切にするため、最小限に抑える努力をしている。ユニット間で行事等の共有時間で関係作りができるように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外での研修会受講の機会を設けている。また、定期的に法人内の研修会や研修後の伝達報告を行い職員間で共有している。</p>	○	<p>個別研修計画で、職員の役割や経験に応じた段階的な育成の更なる取り組みに期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との連携を持ち情報や意見交換を行う機会を持っているが、ネットワークづくりやお互いに勉強会をしたりする取り組みまでには至っていない。</p>	○	<p>ネットワークづくりをして、見学会や勉強会、意見交換で交流を深め、サービスの質向上に一層の努力を期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所見学を実施して、利用者や家族がサービスを納得して利用するために話し合い、雰囲気早く馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話を傾聴したり、料理の味付けを教わったり、一緒に過ごしながらか笑顔のある穏やかな生活を支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の会話や行動から、何がしたいのか、何が食べたいのか、どこに行きたいのか等希望の把握に努めている。困難な場合は、家族に相談したり、利用者の視点に立った思いや意向を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には、本人や家族の意向を聞き、必要に応じて関係者や職員は意見交換をして介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、状況変化には本人・家族・関係者や職員が話し合い、見直しを行い現状にあった介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じた通院の支援や買い物等の支援等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、本人の状態や緊急を要する対応には協力病院や専門医と連携を取り適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針を踏まえて、本人や家族、主治医、事業所間で話し合い情報を共有して、状態や希望に応じて方向性を決め支援できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、利用者の尊厳を大切に、優しい言葉かけや態度で接するように努めている。記録や個人情報の取り扱いにも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は有るが、一人ひとりが、ゆったりと穏やかにその人らしく暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを献立に取り入れたり、力を活かしながら食事の準備や後片付けをしている。職員は誤嚥予防の見守りや食事介助等のため、利用者と共に食事を楽しむ支援までには至っていない。	○	利用者の安全は優先であるが、職員の役割分担で利用者と共に食事を楽しむ時間の工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や希望にそって安全に入浴できるように見守り配慮している。週2～3回は提供し希望によりシャワーもできるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、食事の準備や後片付け、体操、ゲーム、歌等力量に応じた役割や楽しみごと、気晴らしの支援などが日常生活の中で行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせた散歩や買い物等の外出支援をしている。随時季節に応じた外出計画も実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけないケアの実践について理解しているが、徘徊傾向や帰宅願望の利用者がおり訪問者にはインターホンで対応している。利用者の安全面を配慮し支援している。	○	安全面を配慮しながら、短時間でも利用者が自由に外に出られる機会作りを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回法人全体で訓練を実施し応援できる協力体制を作っている。今後は、スプリンクラーの設置や地震を想定した訓練も予定している。	○	今後の更なる取り組みとして、災害に備えた非常用備蓄品の準備を検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や状況に応じて、食事摂取量や水分量の確保について声かけをしながら職員が把握に努め支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、部屋の表示や手すり、不快な音・光・臭気などの無いように安全や環境に配慮している。季節の花を生けたり利用者の作品を展示した飾りつけ等で居心地のよい雰囲気を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の好みに合わせ使い慣れた小物や手作りの作品、家族の写真を飾ったり、椅子やテーブル等も使いやすく配置して居心地よく過ごせる配慮をしている。		